

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	健康推進課長 村下 伯	電話番号	0852-22-5248
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	母と子の健康支援事業		
目的	(1) 対象	子どもと保護者及び母子保健関係者	
	(2) 意図	子どもとその保護者が正しい知識を習得し、相談等により悩みや不安を解消して、安定した生活を送ることができるようにする。また、その支援者の知識・スキルの向上を図る。	
事業概要	○長期療養児支援事業：長期療養児（医療的ケア必要時等、慢性疾患にかかっていることにより長期にわたり療養を必要とする児童）及びその保護者に対して、退院後の家庭生活を支援したり、日常生活における悩みや不安の解消を図るため、相談・訪問・親子交流会及び関係機関と連携した支援を行う。 ○母子保健評価検討事業：「健やか親子しなほ計画」の推進及び計画評価のための県民調査等を行う。また、本計画の確実な推進のために、母子保健関係者の専門的技術の向上を目的し、保健所・市町村・在宅の有資格者等の母子保健関係者に対して、研修会等を開催する。 ○妊娠・出産包括支援事業：妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行うため、身近な母子保健サービスを提供する市町村が事業を推進するための体制整備として、研修、産後ケア事業等の実施に向けた研修会等を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	相談・訪問等相談支援を行った人の数	目標値	1,120.0	1,120.0	1,120.0	1,120.0	人
	式・定義	長期療養児相談・訪問・交流会等で支援を行った人の数（出生数の減少を考慮）	実績値	1,123.0				
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名	母子保健従事者等研修会参加者数	目標値	400.0	400.0	400.0	400.0	人
	式・定義	保健所・市町村・在宅の有資格者等の母子保健関係者に対して実施した研修会の参加者数	実績値	393.0				
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,403	3,226
うち一般財源 (千円)	869	2,531

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基いた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 長期療養児、医療的ケア必要児等ハイリスク児について、医療機関から連絡票や電話により入院中から早期に支援を開始する事例が増えて来ており、1,123件の相談、訪問及び親子交流会を開催した。 母子保健関係者研修会を開催し 393名が受講した。 島根県乳幼児健康診査マニュアルをH27年9月作成し、これの基づく研修会を実施した。 「多機関連携による妊娠期からの切れ目のない育児相談・支援の手引き」をH28年3月作成した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 長期療養児の支援については、入院中から地域の支援機関と医療機関が連携し、在宅に向けてスムーズな移行ができつつある。 関係者向け研修会については、他課や関係団体と協力して実施し、研修内容の充実を図っている。 島根県乳幼児健康診査マニュアルに基づいた健康診査が全県的に始まっている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期療養児への支援について、療養期間が長期化する中で支援のあり方が問われている。 島根県乳幼児健康診査マニュアルに基づいた健康診査が全県的に始まったばかりであり、現場スタッフが十分対応出来ていない。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 児の成長と療養期間が長期化する中で関係者の役割が変化してきているが、それについて関係機関で意思統一ができていない。 健康診査従事者の子どもの発達に関する知識と経験が不足している。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各圏域毎単位支援関係機関での連携の強化 健康診査従事者の技術の向上

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 圏域単位での支援機関相互の情報共有と連携のために、在宅療養支援ファイルの活用やケース検討会の開催などに努め連携強化を図る。 健康診査従事者を対象にした研修会等を開催し、スキル向上を図る。
--

9. 追加評価（任意記載）

<p>・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。</p> <p>・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。</p>
